

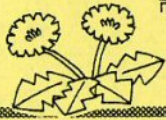
たんぽぽだより

日本共産党川西市議会議員 **黒田みち**

市会議員団控え室 TEL 740-1111 (内線4020)

直通FAX 759-1811

黒田みち事務所 TEL 795-4765



「なにより命を守ってほしい！」
「安全第一で復旧を…」
切実な要求が96項目、JR西日本に申し入れ

4月25日のJR福知山線の事故は一瞬の内に107名の尊い命を奪い、540名にのぼる方が負傷。(市内では18名の方が死亡、83名が負傷されました)
 日本共産党は、ただちに中央委員会・県委員会にて事故対策本部を設置、地域と連携して現地調査・救済活動を開始。私(黒田)も情報収集をはじめ議員団と共に行動。
心のケアをていねいに…
 5月11日には都築研二県



亡くなった生徒の同級生の父親から話を聞く(右から) 都築、黒田の各氏=11日、川西市

アンケートにご協力ありがとうございました。

日本共産党の申し入れ(要旨)

1, 遺族、被害者、マンション住民の皆さんの要望には誠実に対応する事

2, 「安全性向上計画」の安全対策を確実に実施、計画の進捗を公表し、国民・利用者に説明する事

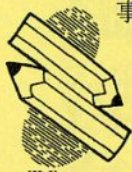
3, 04年〜09年に行う5000人の人員削減を改め、安全部門の人員増を行う事

会を6月11日に開催、15日には、JR西日本本社に申し入れを行います。

安全と安心の徹底を!

もう二度とこのような事故を起こさないよう原因究明と対策を行うこと、被害にあわれた方々の救済に全力を尽くすよう求めています。

改めて、被害者の皆様にお見舞いを申し上げます。



寄せられた切実な声・こえ・声 (要約)

- ☆ JRは明らかに人命軽視、利益第一。命を預かっている重みを忘れないでほしい
- ☆ 運転手もある意味被害者。従業員も人間らしく扱うべき
- ☆ 一人で運転、大丈夫か。病気等もある。二人体制にすべき
- ☆ 本来の安全に乘客を輸送するという使命を社員全員が自覚すべきだ。
- ☆ 運転手・職員に嫌がらせをやめるべき
- ☆ 謝罪ではなく、次に何をすべきか揭示してほしい
- ☆ 国交省がJRに甘く増長させた、国もしっかり責任・援助を。
- ☆ スローライフを今一度考える時、便利のみを考えるべきでない
- ☆ ふりかえバスがJR尼崎まで行っていないのが不便
- ☆ ふりかえ輸送は時間がかかるし、混んでいるし、最悪。
- ☆ 超満員で足の踏み場もない。急ブレーキで転倒事故になりそう
- ☆ 地下鉄もふりかえ輸送してほしい
- ☆ 巨大地震発生時における安全対策等も考えてほしい
- ☆ マスコミやこの間事故を起こしている企業の体質も改善等々

JR体質改善、国の責任、事故防止について60項目。犠牲になられたかたへの支援13項目。ふりかえ運行、運転再開にむけて、23項目のご意見やご要望を頂きました。

- 4, ダイヤは安全第一にし、停車時分も乗客の乗降を充分見込んだものにする事
- 5, 安全設備を緊急に整備する事(ATIS設置や線路と住宅の距離の短い所に防護壁を設置する事)
- 6, 乗客の安全・保護優先の車両にする事
- 7, ホーム、駅舎の安全対策、職員体制の強化を図る事
- 8, 踏切・危険箇所における安全対策の強化
- 9, 「日勤教育」は本来の趣旨に改め、安全第一の教育等JR職員に関わる事
- 10, 利用者の要望に、誠実に対応する事(情報を積極的に開示し、利用者との問い合わせに機敏に対応する事)



応ずる事と利用者や近辺で生活されている方々の切実な悩みや不便さを理解しその改善策に取り組む内容になっていきます。又、これから出てくる様々な意見・要望に関しても引き続き申し入れを行う事になっています。

ご意見・ご要望をお寄せください

くらし・福祉・教育優先の市政をめざして **みんなが住んでよかつた** と考える川西市に……

靖国神社 **これが** 本当の姿

小泉純一郎首相がやめようとしないう靖国神社への参拝。「過去の戦争を反省していることにならない」という日本国内やアジア諸国の批判に耳を貸そうとしていません。いったい靖国神社はどんなところなのか、そこへの首相の参拝はどういうことになるのでしょうか。豊田栄光記者

靖国神社は戦死者を「神様」としてまつる神社で、①戦争で武勲(手柄)をたてた戦死者の顕彰と、②近代史の真実を明らかにすること―が使命だといっています。

靖国神社には、兵器などを展示した「遊就館」とい

宮司は陸軍大将

戦前

靖国神社は1869年(明治2年)「東京招魂社」という名前、明治新政府によって現在の地(東京・九段)に建てられました。その前年からの戊辰(ぼしん)戦争で旧幕府側とたたかい戦死した新政府軍兵士を合祀(ごうし)しつつ一つの場所にまつることをするために、天皇に敵対した旧幕府側の戦死者は合祀されていません。

1879年、東京招魂社は靖国神社に改称。当初は内務省と陸軍省、海軍省の所管でしたが、1887年から1945年の第2次世

う戦争博物館があります。そこには「顕彰」の実態がよく分かる展示品があります。

靖国神社がなぜ、このような戦死者の武勲の顕彰を行うのか。それは靖国神社の創建と深くかかわっています。

界大戦終了までは、陸・海軍両省の管轄下に置かれました。内務省管轄の一般神社とは区別されました。

神職の任免は陸・海軍両省の権限で、神職最高位の宮司は代々、陸軍大将が務め、お賽銭(さいせん)も軍に納められました。

靖国神社にまつられるのは、天皇のために忠義を尽くしたと陸軍省、海軍省が認めた戦死者だけでした。政府は「靖国にまつられることは名誉なこと」と、国民を戦争に駆り立て、兵士たちは「靖国で会おう」と言い残し死んでいきました。

A級戦犯を合祀

戦後

戦後、靖国神社は一宗教法人となりました。現在の合祀総数は246万6千余。原爆や空襲などで亡くなった一般民間人の戦争犠

牲者は含まれていません。

1978年、靖国神社は日中戦争、太平洋戦争の戦争責任を問われたA級戦犯14人を、国家の犠牲者・「昭和殉難者」として合祀しました。

靖国神社のパンフレットでは、A級戦犯を「形ばかり

侵略戦争を「正しい」と宣伝

靖国神社はもう一つの使命「近代史の真実を明らかにすること」を、どのように果たそうとしているのでしょうか。

遊就館には20余りの展示室があり、収蔵品は10万点に及びます。ドキュメント映画「私たちは忘れない」も上映しています。この映画は、首相の公式参拝を推進する「日本会議・英霊にこたえる会」が企画・制作したものです。

靖国神社のいう「近代史の真実」がどのようなものか、映画のナレーションから紹介します。

太平洋戦争―。

「極東の小国・日本が大國を相手に立ち上がった。これは國家と民族の生存をかけた、1億國民が悲壯な決意で戦った自衛自衛の戦争だった」

「満州事変」後、かいらい政権を樹立し、國際社會の総批判を受けたのが日本でした。それでも中國への侵攻を続ける日本に、アメリカは經濟制裁をおこないました。

これに対して、日本は真珠灣攻撃を仕掛け、アジア・太平洋地域を一方的に「生存圏」とし、豊富な天然資源を求めて占領、資源を奪ったのでした。

りの裁判によって「一方的に『戦争犯罪人』という、ぬれぎぬを着せられ、むざむざにも生命をたられた(方々)」と描いています。

日本軍の侵略により、先の戦争では2千万人以上のアジア・太平洋地域の人々が犠牲になりました。

戦争の最高責任者の罪を「ぬれぎぬ」と主張する神社への首相の参拝は、小泉首相がいくら「戦没者の追悼」を強調しても、日本政府が日本の戦争責任・戦争犯罪を否定することと同じです。



日刊●月2,900円
日曜版●月800円

「自衛自衛」は、「自衛」とはまったく別もの、日本が存立するに必要な領土は武力でも手に入れるという、侵略主義そのものなのです。

「外國に押し入り、略奪しよう」と戦地に赴いた將兵たちは一人もいませんでした」という、ナレーションにいたっては、開いた口がふさがりません。

靖国神社はこれらの展示や映画などで、「日本の戦争は正しかった」という主張をくりかえしてほかなりません。

「反省」を行動で

首相は参拝するな 日本共産党が提案

小泉首相は4月、インドネシアで開催されたアジア・アフリカ首脳会議で、「植民地支配と侵略」への「反省」の言葉をのべました。日本共産党はその言葉を行動で裏付けるために、靖国神社への参拝をきっぱりやめるべきだと提案しています。

昔も今も戦争神社

「謝罪の真実性損なう」

アジア諸国が批判

近隣の国々からは小泉首相の靖国神社参拝への批判が相次いでいます。

「故人をまつるといって単純なものではなく、過去の歴史にどう正しく対処するかの問題だ」(中国外務省報道局長)

「戦争犯罪人がまつられており、シンガポールを含む多くの国の人々に不幸な記憶を呼び起こす」(シンガポール首相)

「小泉首相の靖国神社参拝は、日本の指導者たちがかつて行った反省と謝罪の真実性を損なう。もうこれ以上、黙って見過ごすことができなくなった」(韓国大統領)

